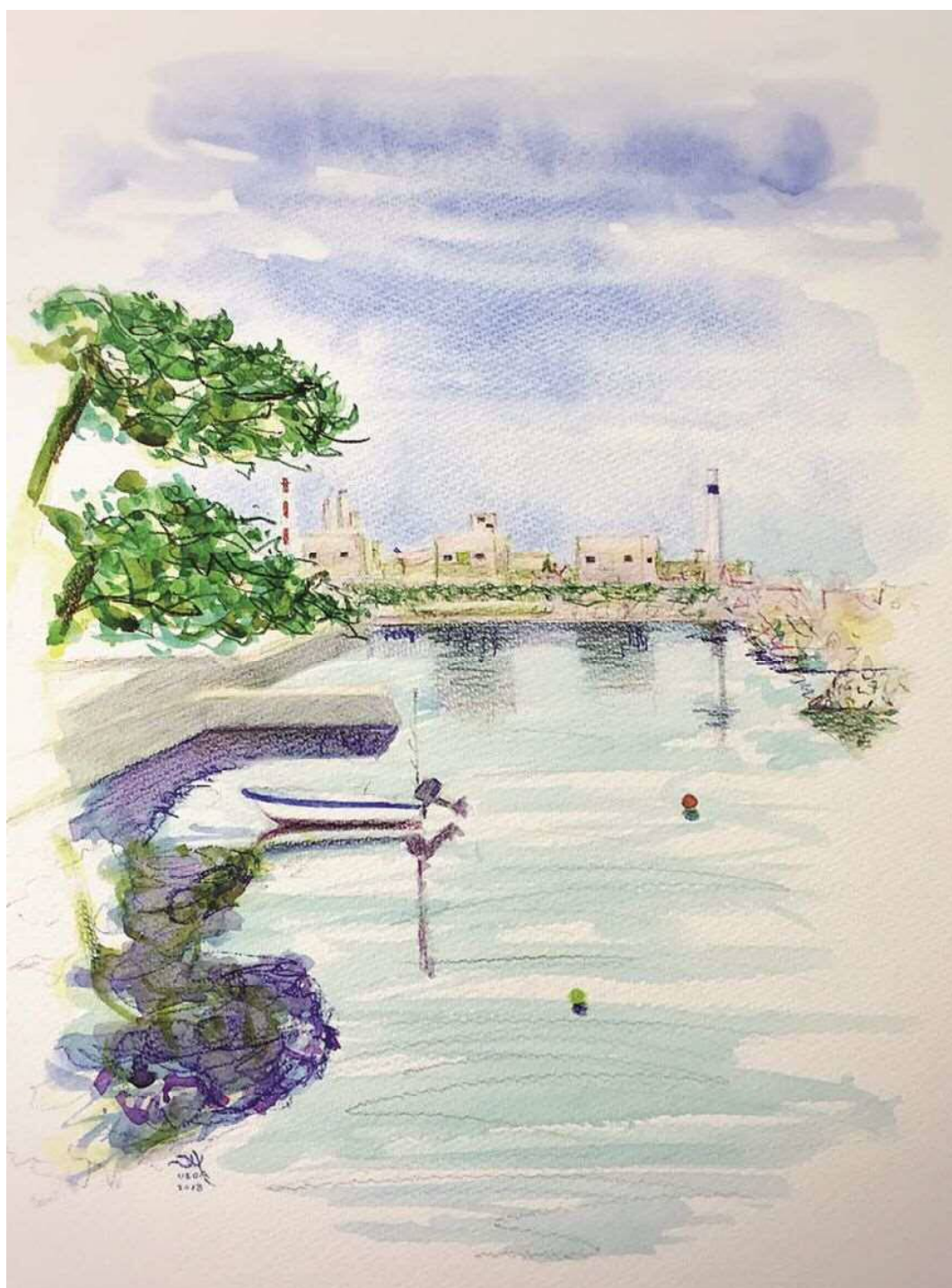


いしづち

2018.7

No.123

 公益社団法人 愛媛県建築士会
<http://www.ehime-shikai.com>



新会長就任あいさつ 会長就任挨拶

寺尾会長退任あいさつ 会長の任期を終えて

委員会報告 伯方塩業旧事務所棟測量調査

1	新会長 就任あいさつ 会長就任挨拶	会 長	赤根 良忠 ……①
2	寺尾会長 退任あいさつ 会長の任期を終えて	前 会 長	寺尾 保仁 ……②
3	委員会報告 伯方塩業旧事務所棟（今治市伯方町木浦）測量調査 文化財.まちづくり委員会委員長		花岡 直樹 ……③
4	支部報告 西予支部総会報告	西 予 支 部 長	信宮 靖 ……⑩
5	けんちくの輪 偶然の積み重ねで・・・ 『温故知新』愛媛	新 居 浜 支 部 宇 和 島 支 部	浅野 憲一 ……⑪ 田中 陽子 ……⑫
6	お知らせ 第1回理事会概要報告 第2回理事会概要報告 平成30年度通常総会概要報告 第3回理事会概要報告 新広報委員紹介		事 務 局 ……⑬ 事 務 局 ……⑭ 事 務 局 ……⑭ 事 務 局 ……⑮ 事 務 局 ……⑯

※ 尚、表紙及び本誌記事の無断転載を禁じます。



水彩画

題：「松前港」

上田 勇一

〔表紙画について〕

松前港は、中世から近世にかけて、関西随一の良港といわれた。この港は、加藤嘉明の命で足立重信が軍港として整備、改修した。1597年、2400名の兵がこの港から朝鮮出兵している。この静かな港を訪れたとき、大きな世界へ繋がる入口のように想えた。

何ともいえない場の空気感が気に入った。

遠いむかしの兵の心を想いながら、簡単なスケッチを繰り返した。

表紙作者 上田 勇一 プロフィール

1974 東京生まれ
1980 小学校から高校まで松山在住
1990 東日本建築教育研究会製図コンクールにて奨励賞
1991 愛媛県内高校生建築競技設計にて会長賞
(愛媛県建築士事務所協会主催)
1993 画家・高橋勉氏に師事。約10年間、古典絵画技法全般を学ぶ
1996 日本工業大学建築学科 卒業
1998 画家として活動開始する。東京や埼玉にて毎年個展開催
2002 日本ファンタジーノベル賞受賞作者「世界の果の庭」
(新潮社)の装丁担当
2003 美術家の登竜門である昭和会にて優秀賞(東京/日動画廊)
2010 愛媛県美術館に作品「ドライフラワー」収蔵される
2015～2017 愛媛新聞 冊子アクリート表紙画連鎖
2017 絵画教室やオリジナルブランド額工房「(株)リチェルカ」を設立
「えひめの塗り絵」を出版
その他、出版装丁画や受賞多数、全国にて個展中心に活動。
現在、現代日本美術会 会員/審査員

会長就任挨拶

会長 赤根 良忠



この度会長に就任しました松山支部の赤根良忠です。どうかよろしくお願ひ致します。愛媛県建築士会は社団法人で発足後58年公益法人へ移行し5年目となります。ふり返ってみれば建築士会には昭和53年に入会し支部役員、本会理事・副会長などの役職を経て今年で40年目となります。本会青年委員会委員長として愛媛県内はもとより全国の建築士会の方との交流の輪が広がったこと、平成6年の連合会全国大会が愛媛県で開催された時の愛媛士会の会員一丸となつての取り組みは今も鮮明に記憶の中にあります。会員が聡力を合わせればいくらでも大きな事業ができる証でもあると思います。寺尾前会長の後を引き継ぐこととなりましたが、県下全支部長・青年女性委員委員長さんより推薦をいただくことが出来会長として今まで建築士の仲間づくり、職務としての情報提供、業界の情報等々について建築士会にここまで育てていただき、またお世話になったことに対して恩返しの意味も込めて会長職を引き受ける決意をしました。

今年度は継続事業として会館建て替えの大きな事業もあります。会員はもとより建築士会を取り巻く関連団体・業界その他多数の皆さんの協力も得ながら完工させたいものです。愛媛県及び建築士会連合会より受託の建築士に関する登録の受付・発行等々はもとより

主な活動として

1. 健全財政の取り組みの一環として各団体・企業等へ訪問して会員・賛助会員への入会勧誘、継続新規建築士登録者への免許証交付及びセミナー、入会キャンペーンの継続に依り会員増加を図ること。
2. 講習会・研修会を開催しCPD単位を十分活用してもらうため会員はもとより県内の建築士にこれらの

情報を発信して活動を周知すること、また多様な社会貢献活動及びレクリエーションも行い一般の方への知名度向上を図り会員増加につなげること。

3. 公益法人としての収益事業、他団体との共同事業、県下各支部に密着し地域性を生かした活動や建築士として相談・助言など行い建築士会活動を周知すること。
4. 地域貢献事業として、木造住宅耐震診断技術者に依る耐震診断物件への派遣、診断を行うことに依り発生確率の上がつた南海トラフの地震への備えや、伝統的建築物の発掘・調査を行い、資料の作成、蓄積すること。

其の他会員に依る会建築士を目指す方への試験への手助けや応急危険度判定士育成、ヘリテージマネージャーに依る文化財の診断・調査も継続することにより県内の重要な建物の保存につながればと思います。

活性化してきている各委員会活動もますますの活躍の場が広がるようにもっていかねばと考えています。建築士会会員倫理規定に定められているよう「社会的使命と職責の重大性」を考えうえでの建築士会活動を行いたいともいますので会員の皆様のご協力をお願いします。

会長の任期を終えて

寺尾会長退任あいさつ

2

前会長 寺尾 保仁



この度 無事、任期を終えることができました。皆様のご協力に心より感謝申し上げます。4年前、会長職を拝命した時は四国中央支部からの会長と言う事で、皆様務まるのかと心配されたと思います。正直時間的に大変な時もありました。しかし自分が望んだことなのでいやだと思った事はありませんでした。士会以外の会に出た時は常に同席された方から「遠いのに大変ですね」と言われました。松山までどの交通手段を取っても 約1時間30分、私が青年委員の時は2時間30分でしたので随分早くなりました。会の役目と考えれば随分遠いと感じますが、自分の仕事と思えば、1時間30分も長い時間では有りませんでした。月に5、6回多い時は週4回の時もありました。まずいなと思った事は、最近年のせいか車の運転が下手になってきたことくらいです。事務局のお三方には余分な心配をかけたことでしょうか。いつもの心遣いに感謝です。とにかく事故もなく終えることができました。

就任の時にやらねばと思った事が、全てやれたわけでは有りません。正直もっとやりたかった事はあります。でもそれは私の能力の無さ故の事でありまして、後悔はしておりません。特に財政改革の一環としての会費値上げに関しましては、皆様のご理解を頂いて実施する事ができました。有難うございました。この結果を元に、もっと活動の充実を図りたいと思っていましたが、時間切れとなりましたので、新しい役員さんたちにお任せする事といたします。会費の値上げ以降多くの会員の退会が有りましたが、当初予想されていた数ほどにはなりません。改めて会に残って頂いた方々の意識の高さを感じると同時に 会のレベルアップと活動の充実への期待の高さを感じました。

副会長始め理事の皆さん、各委員会委員長、委員の皆さん、会員の皆さん、事務局と共に携わった士会の様々な業務や活動は、大きな広がりを見せました。時には互いに叱咤激励することもありましたが、大半は私にとりまして 大いに刺激を受けるものでありました。連合会への出席はもとよりです。建築士の輪が名実共に広がったと思います。

建築士会の充実を図ることで 活発化して内容の濃い活動を行う事が会員増強につながり、社会貢献 技術の向上に寄与することとなります。今後は士会々員として、会員増強と今後の職人不足の問題に対して 何らかの解消策の検討をテーマに個人的に取り組みないかと思っています。今、連合会を通して数名の方々と検討を始めようとしております。興味のある方は一緒にやりましょう。

新体制の下、協力して愛媛県建築士会を盛り上げていきましょう。今後ますますの会の発展を願う者であり続けます。

伯方塩業旧事務所棟 (今治市伯方町木浦) 測量調査

文化財・まちづくり委員会 委員長 花岡 直樹

伯方塩業の概要

明治38年(1905)、塩専売法が施行されると、大島、伯方島、大三島にあった塩田131町歩を管轄する出先機関として、坂出塩務局伯方出張所が今の伯方塩業(株)の場所に開設された。名前と所轄する塩田は時代の変遷とともに変わってきたが、今回の調査対象の旧事務所棟が建てられた昭和16年(1941)当時は、坂出専売局伯方出張所であった。第4次塩業整備が実施される昭和46年(1971)頃は、日本専売公社伯方出張所として営業していた。

最後まで残っていた伯方島と大三島の所轄塩田が生産をやめると、同出張所も廃止され、現在では海老の養殖場や、ソーラーパネルを並べた太陽光発電所として跡地の一部が利用されている。

旧事務所棟の建物について

建物は木造2階建て、屋根は棧瓦葺きの寄棟造で、古江浜の入り川沿いに建つ。建築された昭和16年は第二次世界大戦開戦の年で、物資・人手とも不足する中で建てられた質素な建築であるが、玄関部分の外壁を工夫して張り出し、柱型でアクセントを付け、その部分を洗い出し仕上げにするなど、建築に対する強い意思を感じることができる。

窓は正面を3つの窓を連続させ、階段の吹き抜け部分は縦の連窓、また2階の西窓を縦長の上げ下げ窓にするなど、洋風意匠を取り入れた「擬洋風建築」と位置付けることができる。階段手摺の笠木、2階正面の窓台は人造石研ぎ出し仕上げとし、階段には無垢板、同ノンスリップは真鍮製と、当時としては精いっぱい贅沢をうかがうことができる。内部の壁は漆喰塗りの大壁、天井や巾木、窓枠などの木部はペイント仕上げで、これらも洋風志向の現れと言えよう。

小屋組みを観察すると、梁の架け方は各スパン一定ではなく、梁の寸法もまちまちで、その多くは古材を用い、大きさが足りないところは何本かの木を束ねて使用するなど、昭和13年に木材の取引が制限された後の厳しい状況をうかがい知ることができる。

旧事務所棟の現況について

この建物は現在倉庫として利用されている。1階内部の床板・床組みはすべて解体・撤去され、アスファルト舗装となっている。運搬用車両やフォークリフトが入りできるように、玄関ポーチも削り取られていることが確認できる。また、床下であった故に化粧仕上げがされていない御影石の基礎が現され、土台は根太等の仕口跡を隠すためであろうか、薄板が張られている。壁・天井は漆喰仕上げとなっているが、一部壁の破損した部分

から、細かい木摺に漆喰が塗り付けられていることが確認できた。外部の窓もほとんどがアルミサッシに取り替えられているが、西側1階に鉄骨造の倉庫が増築され、用をなさなくなった部分には当初の木製窓が残されている。また、階段は当初事務所から出入りしていたと考えられるが、現在その扉は壁で塞がれ、南側外部から出入りするように改築されている。

築後の改変で一番大きな点は、北側に増築された建物と行き来するため、当初の北側壁・柱が撤去されていることである。鉄骨の柱・梁で補強されているが、正規の構造計算に基づいて行われたものでないことが明らかである。早急にポスト柱等で補強を行い、その後きちんとした改修を行うべきと考えられる。

その他の歴史的な建物について

倉庫の東側には、1棟挟んで、レンガ造平屋建ての文書庫が残されている。外壁の煉瓦積みはイギリス積み1枚半の厚さで、外部は化粧目地、内部は漆喰塗とされていて、明治末期の建築と伝えられている。小屋組みは洋小屋で、屋根は日本瓦(棧瓦)葺き。入口扉と2か所の窓はいずれも鉄扉で、床は高床式とするなど、大切な文書に対する防火、防犯、防湿の備えとみることができる。意匠的には質素な中にも外壁の妻部分を花崗岩の笠木で飾り、正面入り口扉部分も肘坪金物受けやキーストーンを御影石でアクセントをつけるなど工夫がうかがえる。

この建物も外壁東面に大きな亀裂が入っているなどの破損が確認できる。地盤調査等も行い適切な補強・補修工事が待たれるところである。

また、この2棟の東側の敷地の端には、木造平屋建ての旧塩収納庫が残されている。昭和初期の建築と伝えられているが、時代とともに塩の運搬方法が人力から機械に代わっていく過程で入口の高さを高くする必要があり、基礎をコンクリートブロックで立ち上げ、かさ上げして乗せ替えている。水槽に利用されていた時代もあった。外壁を波トタン張りにするなど改変が大きい。

建物の今後について

以上の3棟の建物は、有名建築家の設計によるものでもなく、意匠的にとくに優れた建物でもない。また増改築もなされ、特に旧事務所棟や塩収納庫は元の姿をとどめていないところも多く見受けられる。しかし塩田としてこの地が栄えた証しとして、事務所、文書庫、塩収納庫がセットで残されていて、しかも営業はしていないが塩田跡地も当時の様子を見ることができる。伯方島における製塩業の産業遺産として貴重ということが出来る。

今後は適切な補強・補修工事を行ったうえで、活用計画

も含めて将来の展望を模索することが重要と考えられる。

今回の調査について

この調査は文化財・まちづくり委員会の歴史的建造物を測量調査し、図面と写真で会員の皆さんに紹介する目的で行われたが、平成 28・29 年度の歴史的建造物保全活用資格者（ヘリテージマネージャー）養成講座修了者の皆さんにもお声掛けしたところ、下記の 6 名が参加して下さった。本委員会も協力して講座を進めてきただけに、修了者の方々にこのような機会を与えることができ、また協力いただいたことはとてもうれしいこと

であった。これからも機会があればこのような活動・調査ができればと考えている。

調査年月日：平成 30 年 3 月 10 日（土）

調査：図面、報告文作成

委員：久保 孝、白石耕平、花岡直樹、峰岡秀和

ヘリテージ修了者：土居由美、中山百合子、花岡晶子、水口喜久美、峰岡義則、村上雅幸

参考文献：愛媛の近代化遺産（近代化えひめ歴史遺産総合調査報告書）/ 愛媛県教育委員会



塩田跡 海老の養殖や太陽光発電に利用



現在の旧事務所棟全景



入り川沿いに建つ旧事務所棟



旧事務所棟正面



専売会社時代の事務所棟



旧事務所棟内部の様子



旧事務所棟の階段室の様子



旧塩収納庫全景



文書庫全景



旧塩収納庫の小屋組み



文書庫入口扉上のキーストーン



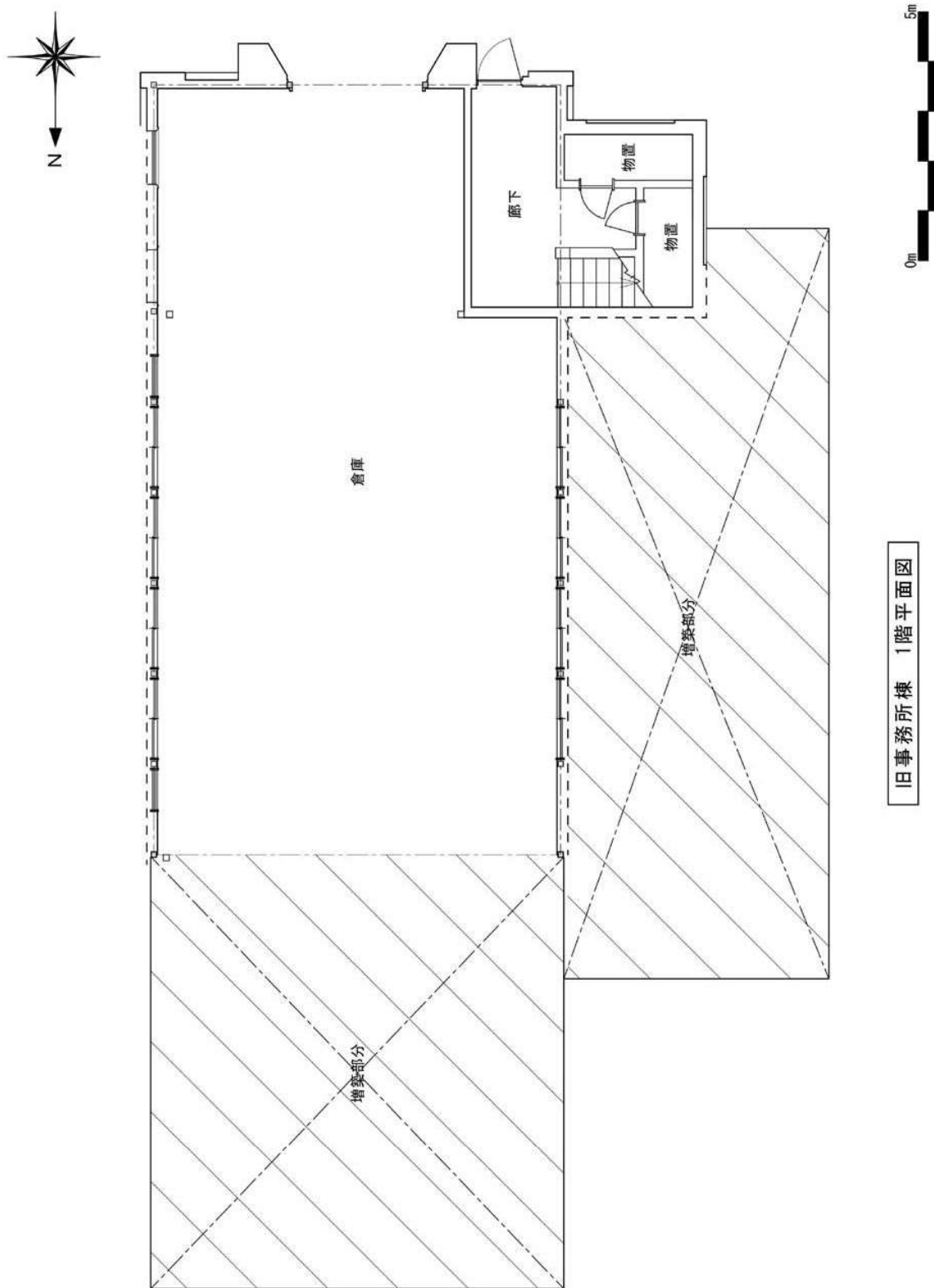
調査風景（旧事務所棟）



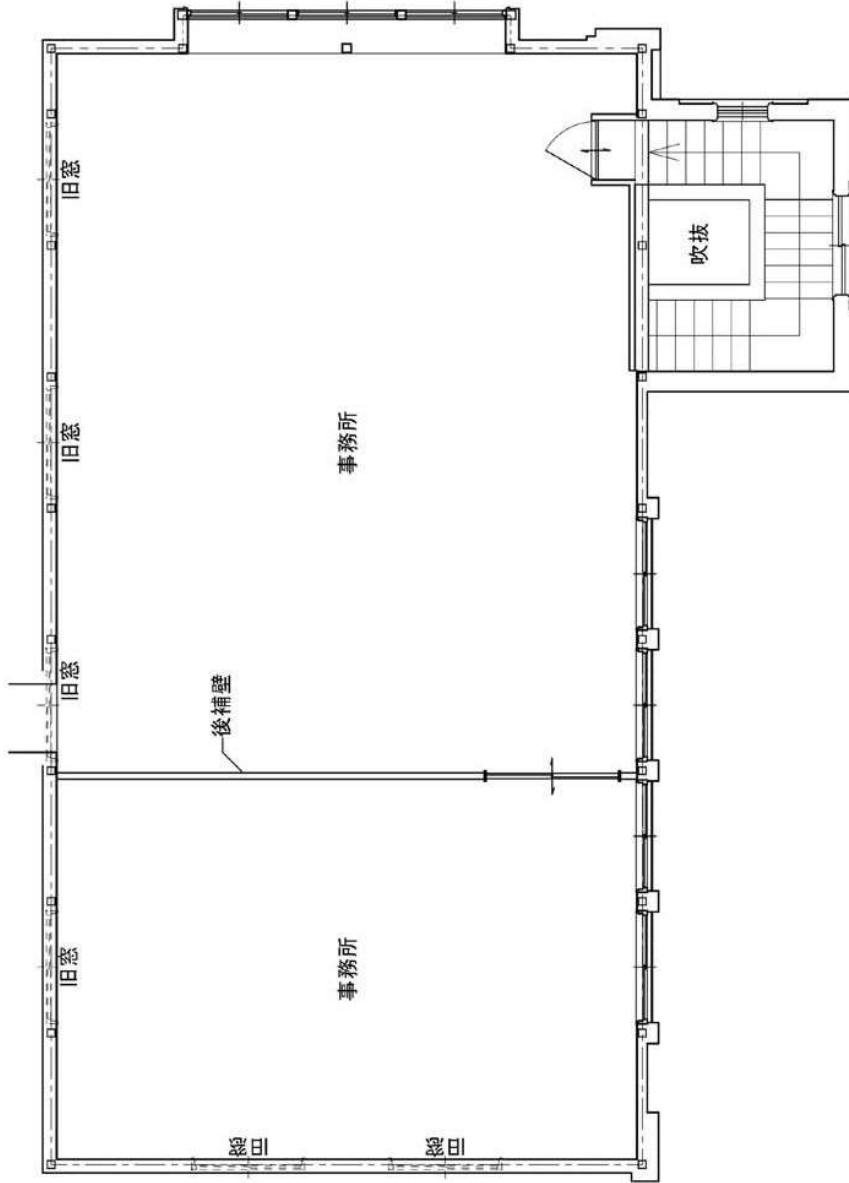
文書庫小屋組みのトラス



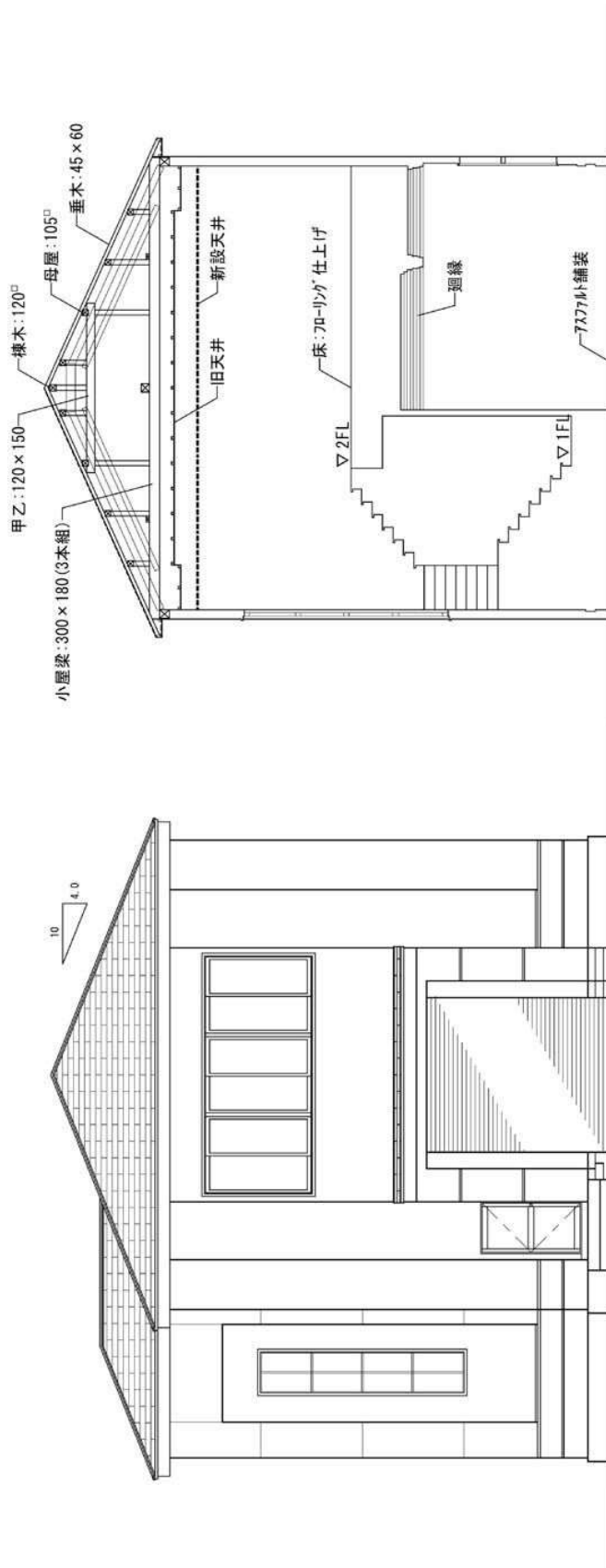
調査風景（文書庫）



旧事務所棟 1階平面図

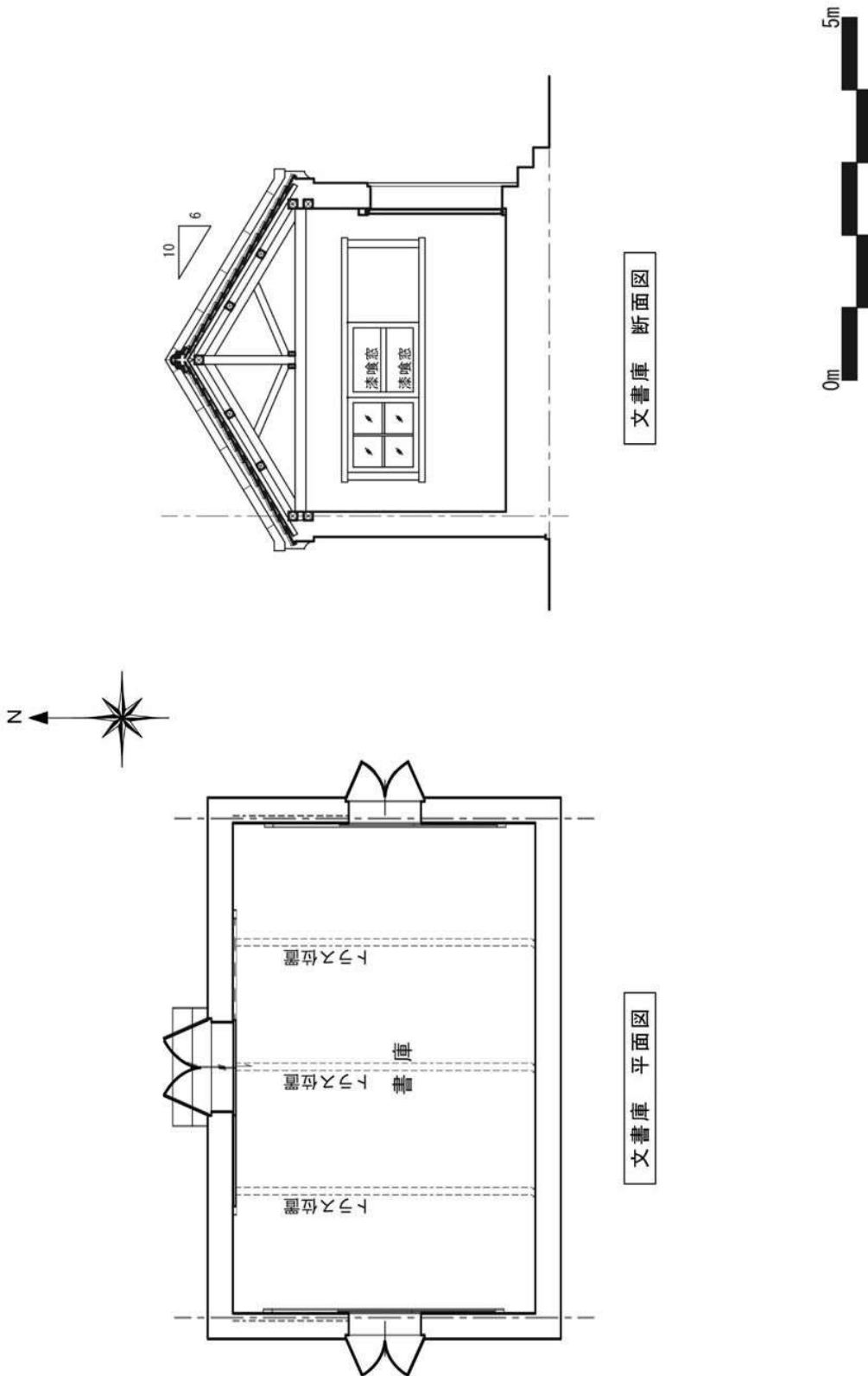


旧事務所棟 2階平面図



旧事務所棟 断面図

旧事務所棟 南立面図



平成30年度 西予支部総会 報告

西予支部 支部長 信宮 靖

日時：平成30年5月22日（火）18：00～
場所：野村町 林業会館 2階 第二会議室

参加者：正会員 16名
賛助会員 1名
来賓（西予市建設部建設課長） 1名

総会次第にそつでの、厳正な会議になりました。
大まかな流れは、…

1. 29年度事業報告では、総会、役員会、活動について
奉仕活動・バレー参加・京都大会参加等を報告しま
した。又、県委員会、青年委員会、女性委員会、情
報委員会からも、活動報告がありました。

29年度は、計画ほどの活動が出来なかった事が反
省点でした。

言い訳ですが……やはり、活動するのはそれなり
に大変です。



2. 30年度事業計画では、「本年度は、より活動を行
う」という事になり、「建築士の日の行事」の案とし
て「ジオパークに関連する事が良いのでは。たとえ
ば、ここに、こんな展望所があれば、よく見えると
か…」という意見も有り、建築士として、貢献出来
る案として、おもしろいので、役員会で検討するこ
とにしました。

3. 本年は、当支部において役員交代の年になり、先に
役員会で挙げていた候補者にて、決定しまし
たと、いったところです。



次に、場所を変えて（徒歩5分程度）懇親会を、行
いました。

西予市建設課長様・賛助会員の野本様共、参加い
ただきました。

信宮新支部長の就任挨拶で始まり、賛助会員の野
本様の乾杯で、開宴となりました。

本年は少し少数になりましたが、近況話やら、活
動案等、話もはずみ、良い盛り上がりだったと思っ
ています。



少人数支部であり、集まるのはだいたい同じメンバ
ーになりがちではありますが、なんとか頑張って活動し
て行きたいと思います。

以上です。

写真は、以前に四国ジオパーク研修を行った時の写真で
す。

（総会当日の写真は、すっかり忘れておりました。）

偶然の積み重ねで・・・

新居浜支部 浅野 憲一

今までひっそりとしていたのですが、西条支部の佐藤さんから、ふいに連絡を頂いた時覚悟しました。ついに見つかってしまった、と。さて何を書こうか?まず私のことを知っている方があまりいないと思いますので、とりあえず自己紹介をしようかと思えます。

新居浜支部所属、現在今治在住、東予方面を中心に建築設計を行っています。ただ、元々建築家になりたかったわけでもなく、育ったのも建築業界とは無関係なサラリーマンの家庭。おまけに愛媛とも全く縁はなし。そんな私が何故、今、此处で、この文章を書いているのか?

出身は神奈川県相模原市。横浜へ30分、新宿へ1時間という、いわゆるベッドタウンです。両親の地元もそれぞれ別の場所で、“たまたま”居ついたのがこの相模原でした。周りもそのような人が多くて、代々土地に続く伝統のようなものはあまりなく、小さな家に住むたたくさんの核家族が集まった町で育ちました。

我が家も周りも現在と比べるとすごく“ゆるい”環境で、かなり自由にさせてくれました。小学生時は、屋根を渡って友達の家を行き来したり、皆で友達の家のパランダから二階の屋根によじ登って星の観測をしたり、当時社会現象にもなった『ドラクエ』を買うため、まだ真っ暗な早朝に駅2つ先の町田まで自転車で遠征してデパートを梯子したり（ファミコンを持っていなかった私は買に行けなかった友人に500円の利益をのせて売りました）、祖父母の住む高知まで全てを子供達だけで行く計画を立てたり（さすがに親に反対され、実行は中学生に延期されてしまいましたが）等々。褒められた事ではないですが、遊びの中でのギャンプルも結構していて、そのおかげで自分には勝つための博才はない、勝負を仕掛ける経営者には向いてないという事を悟りました。

5年生の大雪が降った後のある日、隣の下屋から落ちた雪が積もっている所がありました。私と幼馴染は二人でもっと大きな山にして穴を掘りました。次第に近所の子供たちも集まって、夕方には子供が5人は入れる「かまくら」が出来上がりました。夜はランプを付けて皆でおやつ。これが今思えば人生初の建築(?)でした。

6年生の春。調整区域の産廃場の砂山を越えると雑木林がありました。私たちは辺りからトタン板やロープなど様々なものを拾い集めて、そこに秘密基地を作りました。柱とする木を選び、間取りを作り、いろいろな家具などを持ってきて飾り付けたその時の自分の役職は「イ



初めての建築(画像はイメージです)

ンテリア部長?」。そんな事が好きではあったのですね。

ただ、高校野球で日本の地名を、W杯やオリンピックで国名を覚えた私は、地理や社会に興味があったので、地元の中学・高校・大学と文系の道へ進みます。理系の建築のことはこれっぽっちも頭に浮かびませんでした。

大学は商学部に進みましたが、大きな転機は外国を旅する機会を得た事でした。たまたま最初に話した同級生に付いて行った「世界旅行研究会」というサークルで一人旅をする先輩に出会い、“行ける!”と確信した私は、以後、お金を貯めて2度海外へ渡りました。1回目はイギリスへ4週間、2回目は北欧へ3週間。往復の航空券だけ準備し、後は行ってから考える貧乏旅行でしたが、おかげで様々な人と出会い、経験ができました。一つの場所にとどまる必要がない様に感じたのがこの頃です。

いよいよ就職の時期。授業や旅の経験から企業経済への興味は薄れ、より日々の生活に近い場所に関わりたいとの思いから住宅業界も志望していました。しかし、文系では営業職。その時初めて、住宅を“売る”のではなく“作りたい”と思うようになりました。そこで建築士という職業が浮かび、その最短の道として、今度は専門学校へ行くことにしました。(そのため卒業旅行で考えていた欧州サッカー観戦の旅費は学費へと変りました。)

やっと建築の道へ。でもまだ愛媛は出てきません。二年間の専門学校を経て、人より遅い第二の就職の時期。ここで私はUターン・Iターンを特集した転職誌を手にしていました。住宅の設計がしたいけど大卒より道は狭い、そして、知らないところに行ってみたいな、満員電車はもう嫌だな、というしょうもない理由からです。その雑誌にたまたま載っていたのが愛媛の会社でした。愛媛といえばあの「松山商業」。行ったことはないけれど、母親は同じ四国の高知出身だし、これも何かの縁だと躊躇なく応募し、ついに愛媛にやって来ました。

25歳で知り合いのいない愛媛に来て、もう19年目。ここまであつという間でしたが、職場の人、業者さん、そしてお客様に支えられ過ぎていくことができました。建築士会に入ったのも、会社を辞めた時に、以前たまたま仕事に関わった建築士さんが支部の委員をしていたから。たまたま出会った人がすべての財産です。

25歳までの「第1弾・神奈川学生編」、26歳からの「第2弾・愛媛建築編」。すると50歳を超えた辺りに「第3弾」がやってくるのかな?そんな日を楽しみに、偶然の出来事を感じて行動できる様にありたいと思います。

次は青年委員で一緒になった四国中央の稲村さんへ。よろしくお願ひいたします。

『温故知新』 愛媛

宇和島支部 田中 陽子

この度、八幡浜支部の眞田井良子さんからバトンを受け取りました、宇和島支部の田中陽子です。愛媛県建築士会に入会したのが三年前。私は北海道出身で、以前は地元の建築士会にも参加しておりましたが、愛媛の皆さんの活動的なことに大変驚いております。講習会や建築士のイベントなど、皆さんと交流させて頂くことで沢山の刺激を受けております。日々の活動の糧にしていきたいと思いますので、どうぞ宜しくお願い致します。なお、田中羊子さんと同姓同名で間違われる方もいらっしゃるかと思いますが、どさんこの田中陽子と覚えて頂けましたら幸いです。

さて、私は先にも書きました通り、北海道出身で、愛媛に移住してくる前は横浜、東京の設計事務所で働いておりました。3年前、主人の実家のある宇和島へ移り住んでまいりましたが、ありがたいことに出会いにも恵まれ、現在はすっかり愛媛県人（自称）になったつもりでおります。しかしながら、結婚するまでは愛媛どころか日本の西側には全く縁がなく、高校生の時の修学旅行で行った大阪が私の最西端の地でありました。ですので、恥づかしながら、この会報誌の名でもある『いしづち』石鎚山が、西日本最高峰であることも、引越してから初めて知った次第です。環境や言葉の違い、カルチャーショックなことも沢山ありましたが、石の上にも三年、なんだかんだで多少は伊予弁も話せるようになりました。時々用法を間違えていることもあるようなので、気づいた方はご指摘頂けたらありがたいです。

ところで、宇和島に移住してきて大変感動したことがありました。それは、宇和島城が上空から町を見下ろす光景でした。町の中心にお城山がそびえ立ち、何とも時代がタイムスリップしたような気分になりました。生活のすぐ傍に歴史を感じる建物が存在すること自体、非日常的なことで、特に日没後にライトアップされるその姿は、お城が宙に浮かび上がるように見え、なんとも幻想的に映りました。宇和島城は築城の名手藤堂高虎によって築かれた城郭で、しかも現存十二天守のひとつです。



↑新緑に囲まれる宇和島城

城山周辺は、現在は埋め立てられていますが、昔は海に面していたようで、その当時は海に浮かぶように見えていたことでしょう。



↑千鳥破風

私の生まれ育った北海道は、もともとアイヌの人々がいたとはいえ、移民により開拓された地ですから、どちらかというと歴史の浅い土地です。一方で、愛媛は歴史が古く、鎌倉時代に建てられた太山寺本堂や大宝寺本堂、石手寺二王門など、国宝に指定される建物が3つも存在するという。その他にも、内子町の内子座や、大洲市の臥龍山荘、少彦名神社の参籠殿、西予市にある四国最古の小学校開明学校に、前号で眞田井さんが紹介されていた日土小学校など、たくさんの建築遺産をもつ愛媛。自分が住む町に、こんなに沢山のシンボルとなる建物があるのは、非常に貴重なことだと思いますし、建築士にとっても大変恵まれた環境ではないかと思います。私にとってはまだまだ未開の地ばかりですが、愛媛の『故きを温ね新しきを知る』、愛媛をもっともっと知って真の愛媛県人に近づけるよう精進してまいります。



↑番号が振られる石垣の石

次回のバトンは、愛南町で活躍されている山田千尋さんにお渡ししたいと思います。

新広報委員紹介



氏名 武智 良太
支部 松山支部
勤務先 株式会社日企設計
ひとこと

初めて広報を担当させていただくことになりました。わからないことも多く戸惑っておりますが、自分なりの出来ることをやっていければと考えています。よろしくお願い致します。



氏名 政石 信行
支部 新居浜支部
勤務先 建築設計 エイチ・エム
ひとこと

情報と広報の委員を兼任させて頂くこととなりました。スケジュール的には大変そうですが、兼任ならではの色を出せたらと思います。よろしくお願い致します。



氏名 成松 弘之助
支部 松山支部
勤務先 (株)カタリナハウス一級建築士事務所
ひとこと

建築士会に入会して初めての委員活動になります。既成概念にとらわれることなく、そして建築士会を盛り上げるために積極的に取り組んでいきたいと思っています。



氏名 白石 学
支部 松山支部
勤務先 新企画設計株式会社 設計部門
ひとこと

今年度から広報委員会に参加する事になりました。読む側から作る側へ、経験の無い分、自由に斬新な発想で新しい「いしづち」を作りたいと思います。そして依頼するだけでなく、自らもアンテナを張り、愛媛の建築文化の情報や作品を紹介したいと思います。宜しくお願い致します。

あなたの原稿をお待ちしています。

公益社団法人として、広く異業種や全ての皆様から建築士会の枠を超えて原稿を広く募集して広く購買して頂くようにしていきます。是非、寄稿して頂きますようお願い致します。本年度は年6回発行となります。(尚、営業的色彩の濃いものにつきましては、掲載されない場合もありますので、ご了承下さい。)

「いしづち」の本年度の原稿締切日

平成30年 9月号(124号) 平成30年7月19日(休)

※ 校正印刷の関係で締切延長の最終期限は一週間後の木曜日とします。

※ 1ページ写真込みで2150文字(25文字×43行×横2段)のWORD様式を事務局で用意していますのでご活用ください。

写真は1ページ当たり3枚程度まで題名を付けて添付してください。

また宜しければ投稿者の写真(免許写真程度の顔写真)を添付してください。

会員の皆様のご参加をお待ちしております。また記事等についてのご意見・ご感想もお寄せください。

(尚、投稿された原稿につきましては、要旨を変えない程度の若干の訂正等を加えることがあるかも知れませんので、予めご了承下さい。)

この誌面を通じて、会員の方々、そして一般の方々にも、建築についての対話等の輪が広がれば、と願っています。

情報・広報委員会

読者の声欄

「いしづち」に関するご意見・ご提案などをお寄せ下さい。お待ちしております。

「いしづち」編集委員会(土会事務局内)宛

— FAX 948-0061 —

編集後記

今期から委員長になりました大平将司です。

前任の委員長である玉乃井公和さん4年間お疲れ様でした。

2年間、一委員として編集に関わっていましたが、委員長となり責任のある立場になってから、前任の玉乃井さんがどれほど偉大な委員長だったかを知ることとなりました。

これから、委員の皆さんの力を借りて、新しい「いしづち」を作り上げて行こうと思っています。

今回、新しい企画として、表紙画を「上田勇一」先生にお願い致しました。

プロフィールにもありますが、凄い実績をお持ちの先生です。

それも、今回の「いしづち」のために、新しい水彩画を描いて頂いています。

このように、いろんな方に力を頂きながら新しい「いしづち」を目指したいと思っています。

(大平将司)

〈いしづち〉2018/7

平成30年7月発行

発行人 **会長 赤根 良忠**

発行所 **公益社団法人 愛媛県建築士会**

〒790-0002 松山市二番町四丁目1-5

TEL (089)945-6100 FAX (089)948-0061

<http://www.ehime-shikai.com> E-mail: info@ehime-shikai.com

印刷所 明星印刷工業株式会社

情報・広報委員会・広報委員

委員長 大平 将司 副委員長 渡邊 道彦

編集委員 大上 恵子 山本 晶子 政石 信行 白石 学 武智 良太 成松 弘之助

☆会員の皆様、住所等が変更になった時には事務局までお知らせください。(FAX 089-948-0061)

公益社団法人 愛媛県建築士会

会員住所等の変更届出

この様式は愛媛県建築士会の会員名簿データの変更のみです。
建築士のデータの変更には使用できません。

【正会員・準会員】

					支部	年	月	日		
	ふりがな				生	大		性		
	氏名				年	昭	年	月	日	別
					日	平				
変更部分のみ記入して下さい	現住所	〒	—		TEL			FAX		
	勤務先	〒	—		TEL			FAX		
	所在地									
	建築士資格	一級・二級・木造・準			登録年月日	昭・平	年	月	日	
				登録番号		第			号	

住所等に変更のあった建築士の方は下記の書類も提出してください。

建築士法上の住所等の届出については下記のとおりです。

建築士住所等の届出の次の記載事項(①～③)に変更があった場合、
変更があった日から30日以内に(公社)愛媛県建築士会に申請者本人が届け出てください。

- ①住所、本籍等
 - ②建築に関する業務に従事する者にあつては、その業務の内容
 - ③勤務先の名称(建築士事務所にあつては、その名称及び開設者の氏名)及び所在地
- 書式は愛媛県建築士会のホームページからダウンロード出来ます。